

ニユウナイスズメ(上)

全長14cm。雪解けの始まる  
3月から戸隠の森に戻ってくる。  
オスは頭が赤褐色。  
スズメの頬にある黒いニユウが  
無いためついた名前。

アカゲラ(右下)

全長20〜24cm。  
キツツキの仲間で、下腹が赤く  
体側に黒線がないのが特徴。  
雄は後頭も赤い。枯れ木に  
巣穴を毎年掘って繁殖する。

コガラ(左下)

全長12〜13cm。  
秋にブナの実などを  
樹皮の隙間に蓄える。  
カラの仲間では唯一、枯れ木に  
自分で穴を掘って巣をつくる。

# レンズ を 通して

連載「六月」

写真・文 高円宮妃久子殿下





# その一瞬

写真・文 高円宮妃久子

いいシャッターチャンスがめぐってきた時にカメラを持っていないことがあります。また、カメラを持っていても、写真を撮れない状況にいる場合も多々あります。このような時は、どうしようもないことなので諦めもつきます。しかし、操作や設定を間違えた場合や、カメラを構えていたにもかかわらずシャッターチャンスを逃してしまった時は、何とも悔しく、まさに自己嫌悪に陥る一瞬です。

宮さまの撮られた写真には意表をつく題材と構図が多く、観る者の心に響きます。当時、デジタルカメラの一眼レフはまだそれほど普及しておらず、宮さまはほとんどフィルムで撮影されていきましたので、無駄のないように一枚一枚、丁寧にシャッターをきっていらつしやいました。そして、被写体と心を通わせた写真が撮りたいというお考えのもと、連続シャッターはお使いになりませんでした。

そのお考えに沿うように、私も連写をせずに努力してまいりましたが、なかなか思うような結果が得られません。昨年、宮さまが、いつ、どの方向に動物が動くのかの予想や周りの景色と光の具合の確認を瞬時になさっていらしたことを思い出して、そのふたつの点に気をつけて戸隠高原で撮影してまいりました。今回はその時の写真をご覧にいきます。

戸隠高原では5月から6月にかけて求愛、巣作り、繁殖、子育てと鳥たちは大忙しです。最初のニューナイスズメは、ちょうど巣にいるメスのところに戻ってきたところです。指一本をまず入り口にかけてから止まると

いうことは新たな発見でした。アカゲラは予想外の一瞬。翼を広げる前にシャッターを切ってしまったため、トランポリンをしているような愉快な姿を捉えることができました。

コガラの求愛は、二羽の顔や目がしっかりと写るのが理想的ですが、頭が黒いため、なかなか目にピントが合いません。シャッタースピードを早くして、止まっている鳥にピントを合わせ、飛んでいる鳥にピントが合った瞬間に撮ってみました。このあと、コガラのメスだけが巣に入っているときに、ニューナイスズメが家探しをしていて覗き込み、酷く叱られて飛び去っていきました。いろいろとドラマがあります。

そして、最後のキビタキは予想通りといえ、予想通り。黒と黄色のオスが飛びそうだったので、少し手前にピントを合わせて待ちました。予想外は、同時にメスも飛んだことです。木の幹と同化しています。少しだけオスの方に向けて、連れ添うように飛び立ちました。何ともほのぼのとした一瞬が撮れてとても嬉しく思いました。

鳥の撮影をする中で、彼らだけが進化の過程で得た「飛翔」を上手に表現できるようにしたいのですが、予想外のできごと、愉快な一瞬には心が和みます。よく考えると、私たちの日常はたくさんの一瞬から成り立っています。一つひとつ切り取ることでできるドラマの連続なのかもしれません。少しでもその一瞬がよいものであるよう、努力していきたいと思えます。





## キビタキ

全長13〜14cm、スズメほどの大きさ。

雌は地味な色だが、雄は喉と腰が

鮮やかな黄色。東南アジアで冬を過ごし、

4月の後半から戸隠の森に戻って来る

夏鳥。飛んでいる虫を空中で

捕えることもする。木の穴に巣をつくる。

